

二番茶における摘み取り適期の予測技術について

【研究のポイント】

県内のドリンク茶産地では、広大な茶畑の成園化に伴い、経営規模が拡大しています。数十ヘクタールの大規模な茶園において、高品質な生葉を出来るだけ多く摘採する（お茶を摘み取る）ことが望まれています。そのような中、大規模経営で収量と品質を両立させるためには、摘採の適した時期を予測することが有効です。そこで、今回は二番茶の摘採時期を予測する方法の確立に取り組みました。

【研究の成果】

1) 二番茶の目標全窒素を4%以上とした場合、一番茶摘採から二番茶摘採迄の積算気温はおおよそ1,000℃・日となりました。この傾向は「おくみどり」、「さやまかおり」、「ふうしゅん」、「めいりよく」、「やぶきた」で概ね同じ傾向でした。

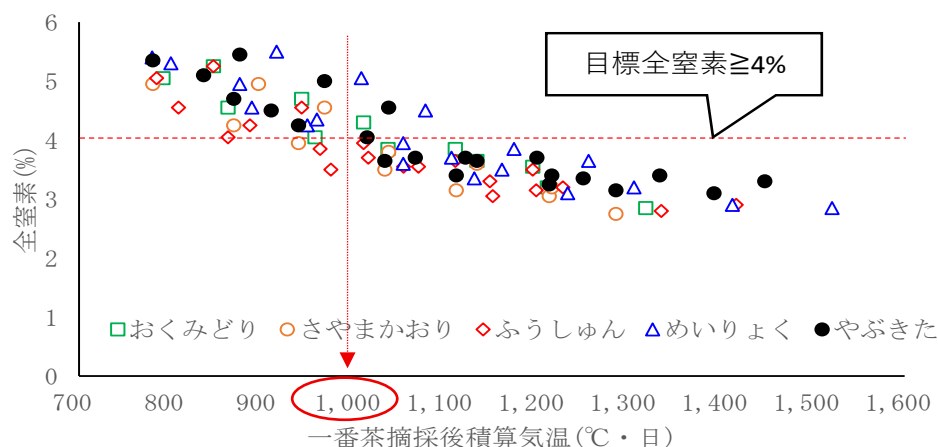


図1 一番茶摘採後積算気温と全窒素の推移（2022～2024）

2) 一番茶摘採後の積算気温1,000℃・日を摘採日とした場合、生葉収量は目標値の700kg以上/10aを概ね達成していました。

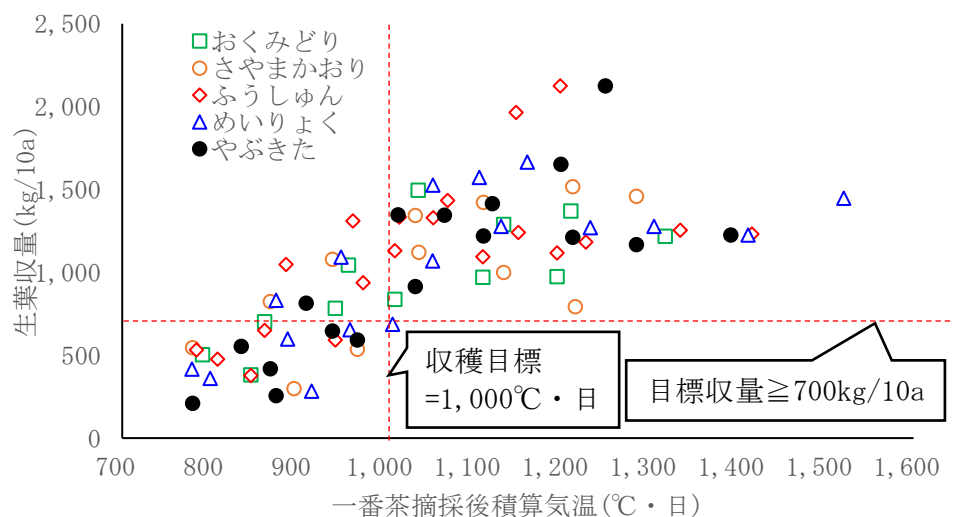


図2 一番茶摘採後積算気温と収量の推移（2022～2024）

まとめ：品質と収量の両立の観点から、二番茶摘採時期は一番茶摘採後の積算気温1,000℃・日が適します。

【生産者の声】



積算気温が摘採の客観的な数値として示されました。あらかじめ摘採適期を予測し、事前に摘採作業の計画を作成できるようになり、大規模な茶園管理や農業経営に役立つ技術だと思います。お茶農家のワークライフバランスにもつながる良い情報です。
株式会社 碑成園
遠嶋 ひとみ 氏（宇佐市）

【連絡先】

担当：農林水産研究指導センター 農業研究部 葉根菜類・茶業チーム
TEL：0974-28-2082
住所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8